

4. 博物館事業の概要

(1) 博物館の全体像

博物館活動の基盤となるのは「調査・研究」の蓄積と、それに基づく「収集・保存」です。札幌市独自の貴重な標本群（コレクション*）をかたちづくり、市民に広く公開、かつ有効に活用し、地域の人々や関連施設などと連携して、多様な学びを提供していきます。

①基本姿勢

- 自然史系博物館として、自然史の視点から資料の収集・保存、調査・研究を行います。
- 博物館の価値そのものともいえる調査・研究実績の蓄積と標本群（コレクション）の収集・保存を行います。
- その成果を展示やイベントなどの各事業を通じて発信します。

②事業の捉え方

博物館の基盤事業である「調査・研究」「収集・保存」を進めるとともに、博物館の資料・情報を活用した事業に取り組みます。

博物館の資料・情報を活用した事業

1. 展示

基本テーマ「北・その自然と人」のもと札幌の自然・歴史・文化を実感する「本物」の迫力や魅力を伝えます。

- 札幌の自然が持つ独自性や地球規模で展開する自然の営みを、分かりやすく伝える「総合展示」
- 多様でタイムリーなテーマで市民の興味・関心を喚起する「企画展示」
- 夢中で取り組むうちに豊かな感性や知性を育む「子ども展示」、博物館や市民活動の最新の成果を展示する「トピック展示」など、多角的な展示

2. 教育・普及

札幌の自然・歴史・文化に関する多彩な学習機会を提供し、幅広い市民の学習意欲を啓発します。

- さまざまな体験・学習プログラムの提供、講習会などの開催
- 学校教育との連携、生涯学習の支援
- 市民研究者やボランティアなどの人材育成

3. 交流・連携

人々の交流を創出し、人・モノ（資料や機関）・コト（情報）のネットワークによりつながりを強め、活動を広げます。

- 市内各所（サテライト）との連携構築
- 学習交流の促進、市民活動の支援

博物館の基盤事業

4. 調査・研究

札幌の自然・歴史・文化に関する調査・研究を継続的に行い、データとして蓄積し、研究者のみならず市民に活用されるよう積極的に公開します。

- 地質時代から現代まで幅広い時代を対象とした、自然史の視点からみた札幌の自然・歴史・文化に関わる専門的な研究
- 札幌への人の集中、まちの形成史について、自然史の観点からの調査・研究
- 他の研究機関や、市民との共同研究の推進

5. 収集・保存

博物館のみならず札幌市の貴重な自然・歴史・文化資産となる標本群（コレクション）の形成・継承と、データベース*を構築します。

- 札幌の自然とまちの形成史に関わる中・長期的な収集・保存計画、計画に基づく資料の収集・保存
- 膨大な自然史関連資料のデータベース化とその活用

4. 博物館事業の概要

③長期的な成長・発展に向けての仕組みづくり

- 企画・運営に市民の参画を募り、調査・研究を市民とともに行う仕組み作りを整備します。
- 市内各所や関連施設との連携を構築して博物館活動を市全域に広げ、市民とともに成長する博物館にしていきます。

④市民に親しまれる博物館として留意すべき点

名所となる

札幌市における文化拠点としてシンボル性を発揮する活動や活動を支える施設内容

自慢できる

市民が誇り、対外的に自慢ができ、何度も足を運びたくなる施設

幅広い利用者

博物館の未利用・低利用者にも敷居が低く、子どもも楽しめる施設

信頼と安心

「本物」の知的資産に裏打ちされた博物館への信頼感、安心して利用できる安全な施設

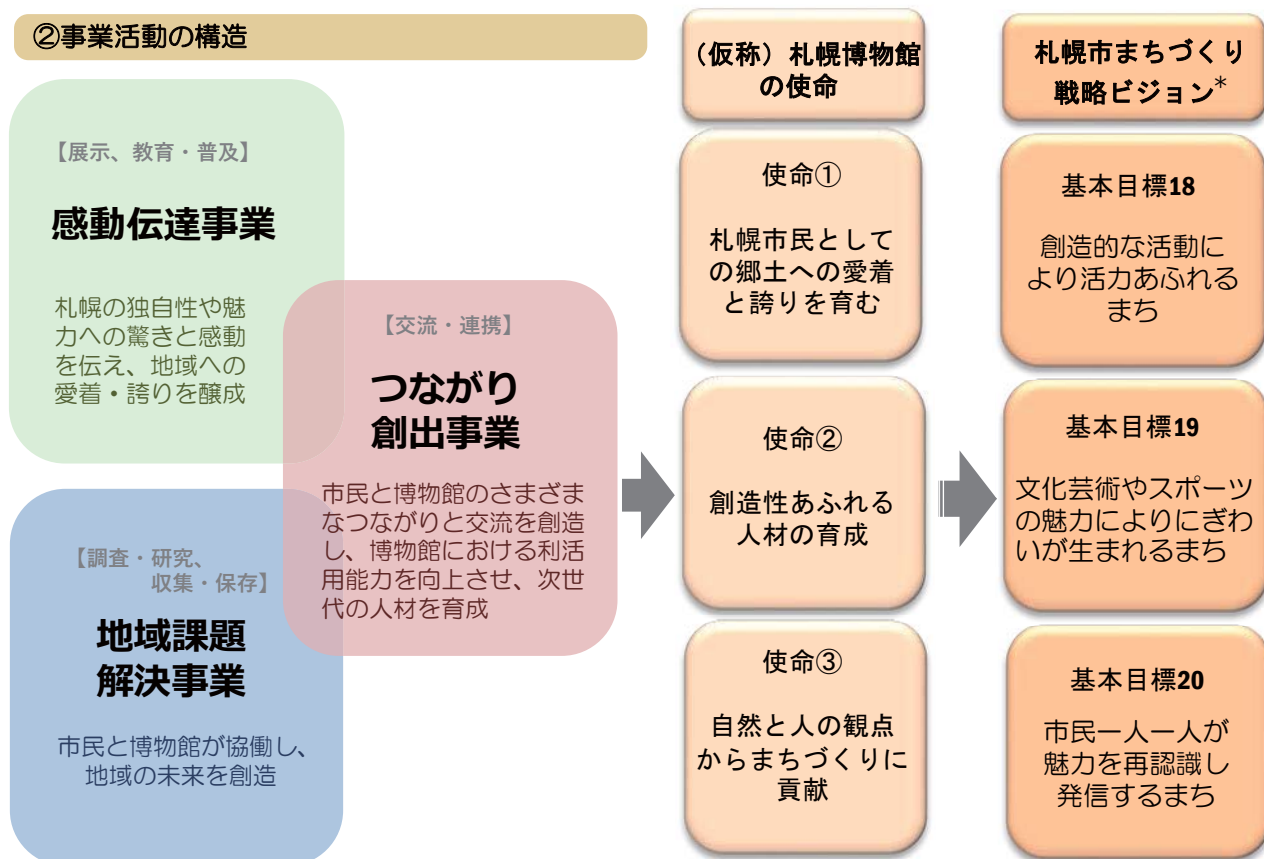
(2) 事業活動計画

①事業活動の考え方

市民とともに自然史の観点から札幌の独自性を明らかにする

- 館の使命と役割を明確にし、活動の地域とテーマを、札幌と石狩低地帯を中心に絞ることで、施設設備、人員を限定します。同時に自然史の分野に重点を置くことにより他館との差別化を図ります。
- （仮称）札幌博物館がカバーできない分野については、既存の関連機関などと役割分担を行い相互の特徴を生かしつつ、補い合う「博物館活動のネットワーク」を形成することにより対応します。

②事業活動の構造



4. 博物館事業の概要

③活動内容について

- これまでの活動を生かし、（仮称）札幌博物館の柱となる3つの事業「感動伝達」「地域課題解決」「つながり創出」を相互に関連させながら事業を展開します。
- つながり創出事業は、感動伝達事業と地域課題解決事業、館外での様々な事業をつなぐ横断的な事業とし、活動拠点（コア*）と、つながり起点（サテライト*）をつなぎ、ネットワークを生みだす活動を展開していきます。

感動伝達事業

展示

- 博物館ならではの「本物」を通じて、子どもから大人まで楽しめる知的エンターテインメント*としての展示
- 市民が参加できる展示

- ・総合展示
- ・企画展示
- ・展示見学支援 など



市民参加展示

学習支援

- 学ぶ楽しさを味わう体験学習、学校への出張事業

- ・学習支援
- ・学習プログラムの提供
- ・学校との連携 など



学校との連携事業

地域課題解決事業

資料収集・保存

- サッポロカイギウをはじめ、札幌ならではの特色ある資料の収集・保存
- ・体系的な資料収集
- ・資料の保存・管理
- ・情報提供（レファレンス*） など

調査・研究

- 市民協働や、他機関とも連携し、調査・研究を充実
- 資料・成果のデータベース化、博物館の知見の発信
- ・調査・研究
- ・研究成果の発信・公開
- ・研究交流 など



収蔵庫バックヤードツアー

札幌博物館の調査・研究領域について

- ・これまでの研究・標本群を保存・継承し、さらに、これらの活用と発展
- ・（仮称）札幌博物館の使命達成に向けて必要となる学問領域について調査・研究を推進

つながり創出事業

つどい・交流

- 市民が集い、活動するサロン*の展開

- ・市民活動の場の提供
- ・情報発信の場の提供
- ・交流・サービスの場の提供 など



市民の文化活動や交流の場となるエリアの整備

人材育成

- 市民研究者やボランティアなどの人材育成

- ・市民の自主活動の育成・連携
- ・後援団体との連携
- ・協働などの体制づくり など

まちなか連携

- 市内の資産を巡り、本物を体感するおさんぼミュージアムやタウンツーリズム*、ICT*を活用したいいつでも、どこでもだれでもが博物館を双方向に利用できる環境とコンテンツの提供など、館内外で展開する観光・交流事業

- ・web*上での情報発信
- ・出張博物館の展開
- ・市内各地のフィールド*における連携の展開 など



おさんぼミュージアム

4. 博物館事業の概要

④ボリュームゾーン*の考え方と対応

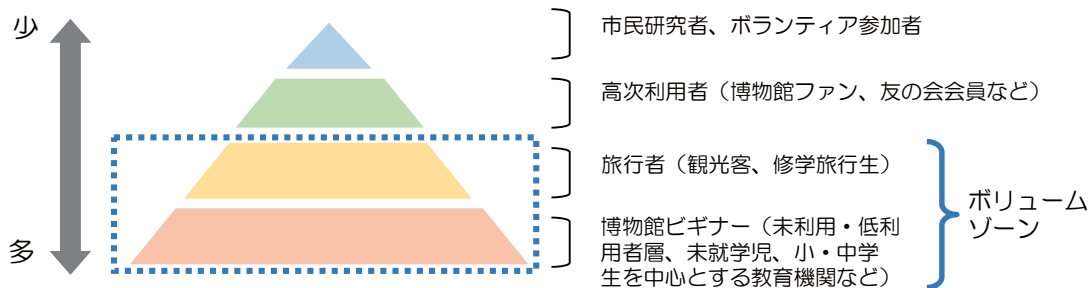
（仮称）札幌博物館の主要な来館者層を想定し、各層に応じた学習プログラム及びサービスの提供を図ります。札幌の地域について知り、学ぶ場となる（仮称）札幌博物館において、主要な来館者は「市民」です。

また使命3に掲げた、札幌の魅力発信によるにぎわい創出及び観光資源としての役割を果たす上で、「旅行者」も（仮称）札幌博物館の主要な来館者層と位置づけられます。

博物館運営にとって重要な集客に向けて、多くの人々が足を運ぶ施設にするため、子ども、親子連れのほか、博物館に対する関心の低い、または、これまで博物館を利用した経験が少ない人々で構成される「博物館ビギナー層」、観光客や修学旅行生など市外からの「旅行者層」をボリュームゾーンとして位置づけ、それらの取り込みを図ります。

ボリュームゾーンの来館拡大

- 多くの人々が足を運ぶ施設とするため、子どもを中心とする博物館の低・未利用者と札幌市を訪れる観光者を主たるボリュームゾーンと捉え、その来館意欲に働きかける展示や事業を構築します。



子ども・家族連れへの対応

- 未就学児を含む子どもや親子連れが実物標本や図鑑など、楽しみながら博物館に親しめる場を目指します。低年齢から楽しく見学し、理解できる展示や解説、事業内容を展開します。
- 子ども向け展示やワークショップコーナーなどの空間づくり、体験会・観察会など親子連れを対象としたプログラムの充実、子育て世代が利用しやすいサービスなどを提供し、家族で訪れ楽しめる環境を整備し、利用促進を図ります。

一般市民への対応

- 展示見学に限らず、博物館を憩い・集いなど、気軽に利用できる場とし、博物館への関心が低い、または、博物館の利用経験が少ない人々や若年層をも誘引する魅力づくりを行います。
- 多様なイベントや、話題性のある企画・特別展示などの開催を検討します。博物館に足を運ぶきっかけを拡大するため、エンターテインメント性の高いイベントの開催、巡回型の企画展の開催など、国内外の集客事例を踏まえ従来の博物館来館者層にとどまらない、新たな来館者層の創出を図り博物館ファンの増加を目指します。

国内外旅行者への対応、観光スポットとしての利便性向上

- 国内外からの観光客、修学旅行生に対し、札幌の魅力や特徴が分かるコンテンツ*を盛り込むとともに、滞在時間の限られる人を想定した動線づくりを検討します。
- 増加傾向にある海外観光客に、札幌の自然・歴史・文化のより深い理解を図り、札幌ファン創出につなげるため、館内情報の多言語化を目指します。
ICTを効果的に活用し、パソコンやスマートフォンなどのデジタルツール*を使った解説サービスの実施、周辺案内など、海外観光客にとっても分かりやすい役に立つ情報提供を検討します。
- 来館・来札記念となるグッズやサービスの提供を行うミュージアムショップ、居心地良く休息のできるカフェなどの導入を検討します。

4. 博物館事業の概要

⑤国内をリードする博物館を目指して

これから作られる博物館として、従来の枠組みにとらわれない新しい取り組みや、実験的な試みを行い、国内の博物館をリードする存在を目指します。

新しい価値を創造する博物館

- 札幌で培われてきた独自の自然・歴史・文化などの価値を人々に伝え、市民の学びやさまざまな文化活動の促進に資するとともに、札幌ならではの取り組みとして、ユネスコ創造都市ネットワーク*に加盟するメディアアーツ*都市としての特徴を生かして、産業、芸術、科学など、幅広い分野との連携を図り、自然とアートが融合した展示や、先進的な空間演出技術を活用した体験プログラムの開発など、これまでにない新しい価値を創造する事業活動を目指します。
- これまでの計画において、博物館を活動拠点（コア）とし、市内各地のつながり拠点（サテライト）と連携しながら、事業を推進していくこととしました。
活動拠点となる博物館では、市民や、自然科学、産業、芸術分野などの人々と協働し、ともに札幌の自然を探究していく過程で、新たな発見を生み、そこから発展した多様な博物館活動がさらなる発見や、新しい価値の創造に結びつくような好循環の創出に向け、従来の枠組みにとらわれない広がりのある事業展開を図っていきます。

さまざまな体験の仕方や、これまでにない体験ができる博物館

- 市民が博物館に足を運びたくなり、リピーターになるためには、博物館に多様な来館動機があり、参加・体験要素のあることが重要です。展示物を単に見るだけではなく、「遊び」「憩い」「学び」なども含めたさまざまな体験、デジタルコンテンツの活用などによる臨場感あふれる体験、多様な展示の見方ができたり、詳しく掘り下げられるなど多面的な学習機会の提供、また、日中だけではなく、夜間においても博物館を有効に活用するプログラムやサービスを導入するなど、来館者にとって多様なストーリー*で体験できる博物館を目指します。

地域活性化、観光振興に貢献する博物館

- ICTを含めた最先端技術の活用により、博物館の屋内外を問わず、札幌市内全域をフィールドとして、地域の自然や街について楽しみながら学べる場にします。札幌の自然や街が持つ独自の魅力を伝える拠点として、（仮称）札幌博物館が、街歩きの起点・終点になるようなツアーの提供や、ツアーガイド人材（インタープリター）との連携など、地域の活性化に貢献する場を目指します。
- 札幌を訪れる外国人観光客は増加傾向にあり、平成29年度上期には外国人宿泊客が5年連続で過去最高を記録しました。外国の方への対応として、ICT技術を活用した多言語化の推進、札幌への理解を正しく深めてもらうための解説・伝達事業の実施など、先進的な取り組みを検討します。
- （仮称）札幌博物館を起点として市内各所に出掛けていけるよう、旅行者や観光客などのニーズや滞在時間に応じたさまざまな楽しみ方のメニューやアイデアの提供を検討します。